

論 説

年 頭 の 感

水 野 鍊 太 郎

歳茲に改つて昭和十四年の新春を迎ふ。年頭に際し謹んで 皇室の彌榮を壽ぎ奉り併せて帝國の隆昌を祈る。

回顧すれば日支事變勃發以來聖戰既に一年有半を經過した。皇軍の嚮ふ所草木も風靡するの觀あり、北京、天津、青島、濟南は勿論上海、徐州、南京、廣東、漢口、武昌、漢陽の大都市は次ぎ次ぎに皇軍の占據に歸し國威は愈顯揚せられた、之れ偏に御稜威の然らしむる所であるが、また我將兵の忠勇果敢なる奮戦努力と銃後國民の一致協力に依る奉公の結晶たるに外ならない、實に感激に堪へない次第である。我軍、廣東を攻略して、兵器軍需品輸送の途を斷ち、武漢三鎮を占據して、中支中樞の機能を掌握し、事

變は愈々躍進し、戰果は益々擴大せられ、抗日侮日の膺懲戰は何時しか東亞の和平、新秩序の建設を目標とするに至り、我國民は其の大使命を達成する爲には國防の整備と長期建設を強調するの一大決意と未曾有の犠牲奉公を覺悟せねばならぬ情勢下に置かるゝ所となつたのである。

思ふに我國は最早日本の日本にあらずして亞細亞の日本となつた、否世界の日本たるべき國運の一大轉換期に逢着した、此空前の轉換期に對處せんが爲には、莫大なる經費の負擔を忍び、堅忍不拔の精神を以て支那國民の覺醒を促しつゝ、聖戰に従つて居るので、此武力的行動に伴ふて遂行すべき方策は支那に於ける占領地域の治安を維持し、新支那の政治、産業、教育、文化等の建設及び滿洲國の開發である、此等新東亞建設工作としては日滿支三國の協同體を組織し以て共存共榮の基礎を強化するを要する。

日滿支三國のブロック即ち東亞の新協同體は政治に經濟に産業に教育に將又文化に協力一致の實を擧げしむるの途を講ぜばならぬことは必至であるが其の方途は幾多あらんも三國相應呼して交通設備の氣璧を期することもその一たるを失はない。

今や陸に海に空に立體的交通の發達を見るに至り、陸上に於ては交通機關としての自動車の發達が最も著しく、獨逸の如き伊太利の如き率先して既に自動車道路網の大計畫を策し着々其の完成に近づきつゝある狀況である、又支那國民政府が兵器類の輸入をソ聯英佛等に仰がんとしては急遽自動車道を築造する、其の他日支兩國に於ける實情を視るに軍隊の移動に軍需品の輸送に殆んど自動

車を利用せざるなく或は自動車を利用することなくしては戰鬪の不可能なるにあらざるかと思はしむるものがある。

之れに由て之を觀るに國防上は勿論産業開發上自動車が重要なる役割をもつことは言ふまでもないことである。苟くも國力の發揚を圖らんとすれば自動車の運行を便にし其の機能を充分に發揮せしむる爲に自動車道の建設は必須的施設であるのは疑を容るるの餘地なきことである。故に滿支兩國に於ては一般道路の建設と共に自動車道の建設を急ぎつゝあるので我國に於ても急務中の急務は自動車道を整備する事業である。仄聞するところに依れば關門隧道の開鑿は愈々本格的に施工することになり新年度以降繼續費として其の工費を豫算に計上することに財務當局の同意を得たりと内務當局の努力に俟つことの鮮少ならざるを思ひ感謝に堪へざる所である。

軍事費の爲に尙莫大なる經費を要するの秋銃後國力充實の爲にもまた多額の經費負擔を忍び國內道路の整備即ち路線の屈曲勾配路幅路床等の改良照明の設備鋪裝の普及港灣との連絡等自動車の運行に資するの設備を完ふするの事業を促進しなければならぬ之れ即ち積極的に資源を開發し生産力を擴充する所以にして三國協同體の活動を推進するの根本策に外ならずと信ずる。

事變第三年の新春に當り所懷の一端を述べて會員諸氏と共に更に一段道路の改良に邁進せんことを期する次第である。